

論壇

米抜き交渉まとめた日本

国会で環太平洋連携協定（TPP）の審議が始まった。国会審議が止まっていたこともあって、会期末までにTPP関連法案が成立するのかが微妙な状況である。ただ、現在の通商交渉などの状況を考えると、この法案が今国会中に成立するかどうかは非常に重要な問題である。

トランプ政権の成立によって、世界の通商政策や交渉の状況は大きく変化してしまった。2国間での交渉を通じて相手国からの譲歩を引き出す。そのためには、保護主義的な政策で脅しをかけること

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

もいとわれない。これがトランプ大統領の通商交渉の姿勢だ。これによって既存の通商政策の秩序が大きく乱された。

TPPはその典型だ。長い時間をかけて最終的な合意にまでやっとならなかつたTPPであったが、トランプ大統領の一声で米国の離

現時点で過度に悲観的な見方をする必要はないとしても、一つ間違えば大きな混乱につながる懸念を抱えている。

こうした流れの中で、米国が抜けた後の11カ国でTPPをまとめることができたことは、大きな成果であった。その交渉では日本が

TPP法案今国会成立を願う

腕が決まった。トランプ政権の政策によって大きな影響を受けているのはTPPだけではない。多国間の貿易システムの要であるはずのWTO（世界貿易機関）は、そのルールを無視するように次々に保護主義的な政策を打ち出す米国によってますます弱体化している。米中の貿易摩擦についても、

重要な役割を果たした。米国抜きでのTPPの批准のための審議がこの国会で行われている。日本が一刻も早くTPPを批准すること、他の国の批准を後押しする上でも重要である。そして、早い段階でTPPが成立すれば、米国発の保護主義の防波堤としての意味も大きい。

幸い、タイや英国などはこのTPPに参加する意欲を見せている。TPPが早期に実現すれば、そこに新たな参加国を誘導して、自由貿易の輪を広げることも可能だろう。

TPPは、日本と米国の間の今後の通商交渉に関しても大きな意味を持つ。米国は日本に対して本格的な通商交渉を求めている。デール（取引）によって日本から譲歩を引き出したいというトランプ政権の狙いは明白だ。日本としてもそうした交渉から逃げることはできないが、米国との難しい交渉に入る前に、ぜひともTPPを成立させておきたい。

多国間枠組み一刻も早く
2国間交渉が当事国の利害をむ

き出しにした交渉であるのに対し、TPPのような多国間の協定は地域全体の方向性を決める重要な枠組みとなる。米国の動きによって2国間の交渉が激しくなるなら、なおのこと多国間の枠組みを大切にすることが必要である。トランプ政権の通商政策の姿勢を目の当たりにして、米国抜きではあっても、TPPで合意が成立して本当によかったと思う。

通商交渉では手順が重要である。当面目指すべきは、一刻も早くTPPの批准をして、TPPの成立を後押しすることだ。その意味では、国会の混乱からTPP法案の審議が遅れていることは懸念材料だ。何としても、この国会でTPP関連法案が成立することを願っている。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。